

全国から届いたニュースを発信！ ポジティブな視点をはぐくむメディア

TOIN GOOD NEWS PRESS

2022.11
とういんグッドニュース新聞 07



雨露にぬれた満開のコスモス畑にかかる虹のアーチ (東員町山田)

父の電動自転車

9月にはいって、東員町の健康長寿課から電話をもらった。父が100歳で長寿の表彰をしていただけという知らせだった。私の父は今年満99歳になる。何かのまちがいだと思ってしまう。何かの表彰の規定は数年前によるおすと、表彰の規定は数年前によるおとであった。それなら、まちがいはなく100歳、まずは、めでたい。



父は身体が多少不自由ではあるが、気持ちはずいぶん元気だ。「白寿の祝いの会は自分で考えて、お前や孫、ひ孫たちを招待する。お前たちが気が使わなければならない」と少し前に言った。家族み

んなで楽しみにしている。
15年前、父は運転免許証を返納した。車の運転はやめて、どこに行くにも自転車を使っていた。それはそれで心配なところもあったが、乗るなどいえない。電動シニアカーを買おうかと妹に相談した。まだ自転車には乗れるだろうと妹がいうので、電動アシスト付きの自転車をプレゼントした。
当時流行り始めた電動アシスト自転車は、30kmほどの距離をモーターのアシストを受けて走ることができる。父は、30kmでは電池が心もとないといつて、予備の電池を買い足して荷台に積んでいた。四日市までくらは出かけることもあったようだ。

その父も、3年前に介護施設でお世話していたことになる。自転車には乗らなくなっていた。同じころ、癌にむしばまれていた妹は、少しずつ歩行が怪しくなった。使わなくなった父の電動自転車に乗ることを勧めた。丁寧に整備をして妹に届けたが、ほとんど乗る機会もないまま逝ってしまった。父の自転車は、今、乗り手をなくして所在無きげにしている。今日のよう

によく澄んだ秋晴れの日には、父と一緒に自転車で出かけたらしいのにと、思いついて、久しぶりに父の自転車を磨いた。
(東員町・MARIOBIKE・70歳)



アサギマダラがやってきた!

昨年の4月に子どもたちと地域の方が校庭に植えたフジバカマの花に、今年もアサギマダラがやってきました。ちょうどフジバカマの花が満開になる10月中旬から下旬にこの地域にやってくるのです。
アサギマダラは「旅をするチョウ」として有名な、アゲハチョウに似たチョウで、何百キロも離れた地域まで旅をするそうです。日本でマキングされた個体が台湾で発見されたこともあるといいます。
そんな「旅をするチョウ」ことアサギマダラが城山小学校のほうにもやってきてくれました。人間のこ

をほとんど怖がらず、優雅に飛ぶその姿はとても美しく、見ているだけで癒しつけられるものがあります。多い日で20頭(チョウは、1頭、2頭と数えるそうです)くらいやってきて、子どもたちも興味津々。休み時間には、校庭の花壇に向かう姿が見られます。
11月に入ると、暖かい南のほうへ飛んでいくでしょう。花壇のアサギマダラも少なくなっています。また来年の10月、元気な姿で会えることを楽しみにしています。
(桑名市・マダラちゃんLOVE・50代)



ひからびかけた女

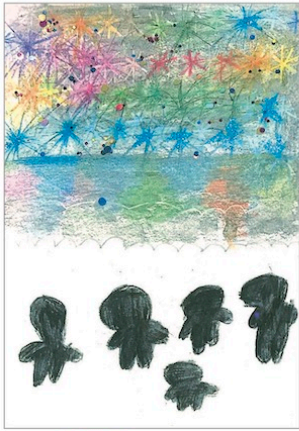
夏休みに入ってコロナがばく発できふえた。
私はまだはなカゼが治ってなかったのでママが
「めんえき力が下がるとで出かけれやん。」
と言った。

なのでいこと遊ぶ予定も、プールに行く予定も全部なしになった。
「これから毎日つまらないなあ。」
思ってた。

夏の思い出

7月23日、わたしはかぞくみんなで行きまへ行きました。となりにあるとてもきれいな海で貝ひろいや、シュノーケルをつけてたくさん
の魚を見ました。

はじめはライフジャケットをきて海にはいるのはこわかったです。でも、ママといっしょに手をつないでおよぐんしゅうをしたら、足がつかないふかいところまで行くことができました。
あさいところには、魚はすこししかいないけど、ふかいところはにじ色の魚やカニやキラキラの小さな魚のむれを見ることができました。それを見てわたしは、「スイミー」を思い出しました。
よるは海から花火大会を見ました。パナミたいな形や蚊のようなうご



そうとは知らずママが

「自分から宿題してえらいやん。」
とほめてくれた。ラッキーだった。

そしてラッキーはつづいた。昼から庭で水遊びをして、夕方すずしくなっ

てから自転車で遊んだ。
家の中でひたすらすこすなてひからびるかと思つたけど、ひからびずにすんでよかった。

(徳島県小豆島市・3年生・川村ひなた)

③おうちにも、いろんな楽しいことがあるって、発見もできたね!

き方をする花火が見れてきれいでした。

(徳島県小豆島市・2年生・本間夢音)

④絵の色づかいがすくきれい! 海も花火も本当にきれいだったんだね!

我が家のかいじゅう

よく男の子の育てで「怪物」「宇宙人」などという言葉を耳にすることがあります。

我が家の息子君も、まさに。
私が全く予想できない行動をし、驚かせてくれます。

お姉ちゃんも基本的には大人を困らせる行動はしない、大人に褒められたタイプだったように思うのですが、息子は言葉が話せない小さな頃から「〇〇したい」と訴えかけ、それを理解できない私によく怒っていました。

言葉を話さずになり、自分で表現できるようにになると「これがやりたい!」を常に伝えてくれるのですが

イネに学ぶ

我が家の玄関と勤め先の小学校で、バケツ稲に挑戦しました。

田植えの際に、子どもたちに1本ずつ苗を持たせ、気づいたことを1人ずつ発表してもらいました。ある子が、「くさ」と、ひとこと呟いて、笑いが起きました。なごやかな、どんな意見も受け入れる雰囲気がありました。
「くさ(雑草みたい)」



……それができなくなると、まあ大爆発。いわゆる、駄々です。
しかし、その駄々の仕方がいつも面白いのです。

ある日の保育園のお迎えの時、その日にあった事件の話をお聞きしました。
砂場で遊んでいた時のこと、先生の頭を砂でばらばらとかけたそうです。
「それがおふざけだったのか、事故だったのかはわかりませんが」

先生が「やめてよ。先生、嫌だったよ。謝ってくれない?」と注意を促すと、そう言われたことがショックだったのか「俺はそんなの嫌じゃない!」と言って、泥だらけの自分の手を顔に擦り付け、泥まみれに。

今度は「あなたに嫌じゃないかもしれないけど、私は嫌だった。それに砂は目に入ると痛いから顔を洗ってきたほうがいいんじゃない?」と言う先生の言葉に、自分で顔を洗い、荷物をまとめて「もう保育園なんか二度とくるもん

「細い」

「黄色いところがある」

といった意見が出ました。

「雑草みたい」という気づきは、イネ科の植物の分類や種子葉の学習のときに活かされるでしょう。また、除草の必要性について学ぶことにもつながるかも知れません。

「細い」「黄色いところがある」といった意見も、なぜ数本まとめて植えるのか、なぜ肥料が必要なのか、考える糸口といえます。

しかし、そもそも、普段何気なく目にうつっていた緑色の何某かを手にとって、「イネ」として認識することに値打ちがあるのではないのでしょうか。情報があふれる世の中で、手にとって、感覚をフル活動させて出合ったものでこそ、感性を育てられることでしょう。



か! 帰る!!」と言って一人で帰れるとばかりに靴を履き始めたそうです。

その後は「残念ながらママが迎えにくるまでは、先生があなたを守らないといけないのよ。」と諭す言葉に気持ちも少しずつ収まっていたとのこと。

自宅では手が汚れることを気にしてよく手洗いをする息子が、自分で顔に泥を塗るなんて話を聞いて驚きました。

まずは先生に申し訳なく、尊重して対応してくださったことにも感謝ばかりですが、気持ちをコントロールするのが難しい年齢だということを考えても、大人である先生にそこまで自分の気持ちや意見を伝えるってすごいなと感心をしてしまいました。

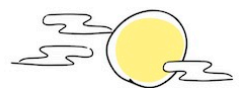
先生には内緒ですが、宇宙人のように人の顔を覗きたりせず、怪物のように熱い気持ちを吐き出して、自分を縛らない息子を、少し羨ましいと思つた母でした。

(愛知県・あさくらさん・41歳)

さて、稲刈りの季節になりました。

残念ながら、酷暑で枯れてしまったバケツも多かったですが、そこから学ぶこともたくさんあります。どんな気づきがあるか、どう学ぶにつながついていくのか、楽しみです。

(いなべ市・ひょうきんどんぶり・39歳)



喜びを
伝えて
くれる
うれしさ

東員町内の小学校5・6年生に、理科の授業をしています。

5年「雲と天気の変化」の授業の初め5分間、ペランタに出て、雲の観察を続けていました。「あれは、ひつじ雲」「飛行機雲があるから、明日は雨だ」「雲が1つもない」と、きれいな秋空を眺めながら、ゆったりした時間を過ごしていました。

すると後日、授業前の休み時間に、「昨日の夕方、きれいなひつじ雲が見られた」「夕焼けと雲がきれいだった」と、次々ときれいな雲を見たことを話してくれました。中には、タブレットで写真を撮って見せてくれる子もいました。

6年「太陽と月」の学習を始めるにあたって、「満月は、何時頃、どの方向に見られる?」と呼びかけると、次の授業の時に、「夕方、東の方角に見られた」と、満月を見られた喜びとともに話してくれました。翌月の満月が見られる日を伝えたら、「朝の6時に、西の方角に見られた。きれいでうれしかった」と、自分から伝えに来た子もいました。

宿題でもないのに、自分から観察をして、きれいな雲や満月を見た感動を伝えてくれたことが、とてもうれしかったです。学校で学んだことが、自分の生活を豊かにするきっかけになれば、と感じています。

(四日市市・理科担当の教師)

活躍のまち東員町

このイベントにこの女性あり！

町のイベントとして親しまれている
TOINマルシェと東員町コスモスまつり。どちらも町民が立ち上げ、運営を手がけているイベントです。それぞれで中心となる活躍するふたりの女性に、開催のきっかけや苦労話、イベントへの想いなどを話していただきました！

TOINマルシェ主催
大倉美里さん

東員町観光振興会 TOINイベント実行委員会
所属 2015年からTOINマルシェを主催

趣味をあきらめない勇気を

女性であること、とくに母親であることが理由で、日々の生活のなかで趣味に時間を割くことが難しいという人が、身近に多かったんです。やりたいけど、「できない」「無理」という言葉をたくさん聞いてきました。

私自身、ハンドメイドの作品づくりをしていたので、だったら同じ女性であり、子どもをふたり育てているシングルマザーでもある自分が「まずやってみせたらどうだろう」と。

それが誰かの「自分もやれるんだ」「私にもできるのかも」という勇気になるかもしれない。そう思ったのが、マルシェを始める最初のきっかけでした。自分の作品を出品する場所が欲しかった、という部分も多少あったかもしれない（笑）。

コロナ禍で気持ちをあらたに

マルシェの運営は、駐車場の誘導員さんやゴミの回収業者さんとの契約まで、すべて出店料でまかっています。持ち出しになってしまふこともしばしばで、主催すること、そして継続していくことの難しさを痛感しました。

自分の立ち回り方についての葛藤もありました。出店数が増えてくると、ありがたい一方、関わる人たちが増え

すぎて全員の顔を覚えきれなくなってしまう。でも、主催である私の顔はみなさんに知られている。どこで誰に見られているかわからないというプレッシャーだったり、表に立つことで私の人間像がひとり歩きしてしまったり、悩ましい部分もありました。元はネガティブ思考なもので……（笑）。

でも、コロナ禍で開催できなかった時期が、残念な反面、気持ちをリセットするためのいい機会にもなりました。マルシェを、町をもっと盛り上げたい、いつも考えていて、肩に力が入っていたんです。いまは「私が大好きな人たちと、この町で楽しく」というマインドになっています。

当事者目線のマルシェづくり

TOINマルシェにきたことがきっかけで、イベントを行なう団体を立ち上げた、という女性がいるんです。そんな話を聞くと本当によろしく。これまで微力ながら種をまき続けてきたことが、報われないと感じる瞬間です。女性である自分が主催をするマルシェの強みって、なんだろう？と考

えたと、やっぱりその立場に立つて考えられることだと思うんです。たとえば小さなお子さん連れでも出店できるようなサポート体制をつくったり。自分が車椅子を経験したからこそわかる、バリアフリーのありがたさとか。これまで7年間やってきて、いまだに苦労は絶えませんが、それでも、やっぱり参加してくれている女性の笑顔が輝いているのを見てると、「やってよかった！ よし、次もがんばろう！」ってなるんです。

東員町コスモスまつり運営
南山直美さん

東員町観光振興会 もつとあつぱういん所属
猪名部ジンジャーエールの企画販売、コスモスまつりの運営を手がける。

縁でつながる手づくりイベント

コスモスまつりは、もつとあつぱういんで企画した「猪名部ジンジャーエール」販売の際に、ご協力いただいた町の内外の方々や、買ってくださったみなさんに、なにか恩返しをしたいという想いから始まりました。

なので、最初はジンジャーエールでお世話になっている方を中心にお声がけして、出店していただきました。以降はすべて、そこからのご縁やご紹介でつながることのできた方々が出店してくださっています。

そういう関係性ありきだからこそその親近感というだけ、信頼をもってブースを出しているだけ、基本的に出店の募集はしてないんです。まだそこまでのほどの知名度がないというのもあるかもしれないけど（笑）。

巻き込む力で仲間になる

イベント運営についてはまったくの素人でしたから、右も左もわからずでした。TOINマルシェの美里さんにも、いろいろな話を聞いたりして、最初はどこから始まって、やれないか、というところから始まって、なにに苦労したかといえは全部苦労だったかもしれないけど、それを感じる間もなく走り抜けて、いまに至るという感じでしょうか（笑）。

やっぱり東員町が好きだから、続けられるんでしょうね。結婚を機にこの町に住むことになったので、土地への愛着かといわれると正直ハテナですが、同じ町に住む人とのつながりという

か、単純に東員町に住む人たちが好き、ということがモチベーションになっているのかもしれない（笑）。

町長や行政の方々も巻き込んで、いまではバックアップしてもらっています。巻き込んで、仲間になってもらって、その関係性は大事に思っています。



積極的に楽しむ姿勢で

新しく仲間になってくれる人たちが、とくにこれから担う若い方が運営に参加してくれたら、うれしいですね。きつとまた、私はなにも考えずに走り回っていいんですけど（笑）。

毎回大変なのは変わりませんが、来場された方々の笑顔を見れば「よし、やりきった！」と思いますし、やっぱり楽しいです。苦勞も込みで楽しいと思ひ込むという、積極的に楽しむとするスタンスも大事です。

今回も、コロナ禍でイベントでの販売が思うようにできないなか、地元のお店街の方などに協力いただいたおかげで、無事に開催ができました。「ありがとう東員町」という想いで、町の外からもコスモスまつりに来てくれる人がもつと増えて、みなさんに少しでも還元できたかと思っています。



日じよう生活

ばくが、住んでいる東員町は、おだやかな町で、みんなやさしいです。

東員町の人は、あいさつもちゃんと返してくれます。

そして、ばくの1日がはじまりいつものように、楽しい学校に行つて、勉強をして休み時間を楽しんで、帰ります。

そして、おやつを食べて、ごはんを食べて、歯をみがいて、ねる。これが、さいこうの日じよう生活です。

（笹尾東小学校・5年生・荒田そら）
G やさしい町で、楽しい日じようをすごして、じゅうじつして！

大ふじう

「かくめいはするいぞ。」とぼくはいつた。なぜいつたかという、一回目のしうぶで五分もしないうちにかくめいをした母にまけてしまったからだ。そして二回目、ぼくはこう思った。

「つきこそかくめいをつかって母にかつてやる。」しうぶがはじまった。ぼくははやくにかくめいをつかった。でも、母がかくめいをしてきたから五分二十秒でまけた。

次はかくめいがえしをしてやる。（笹尾東小学校・3年生・定岡りょう）
G お母さんが強てきすぎる！ 運をみかたにつけて、次こそ勝とう！

ゆいなちゃんのネイル

お母さんに連れられて、お店にやってきましたゆいなちゃん。お母さんが化粧品コーナーで買い物をしているのを待つ間に、ゆいなちゃんのお手も綺麗にさせてもらいました。

久しぶりのマスキングテープ（広島県・佐藤友則・46歳）
G 2年ぶりぐらいかな？

小さかった手も、少しだけ大きくなって。それに伴って爪もちよつと大きくなっていました。ラッピング用のマスキングテープをひとつずつ、真剣に選んで、指定の指に貼り付けていきます。左の小指と右の薬指は特に頑張つて貼り付けた力作（笑）。



頼もしい姿に思う

夏休みもあと数日で終わろうとしているある日、近所の駄菓子屋さんの改装のお手伝いに誘われて、子どもたちとともに伺ってきました。

改装とはいっても、これまで使っていなかった2階部分に床板を張り、子どもたちが宿題をしたり、本を読んだり、思い思いに過ごせるように開放するためのものです。

工務店の方に教わって、サイズや水平を測ったり、電動ドリルやノコギリなどの工具を使っています。

恐々さわる子もいれば、最初から思い切りよくいく子もいて、なんとなく性格も出るのかな。見ていて飽きません(笑)。

近所付き合いは 挨拶から

東員町に生まれ育って五十年以上になりますが、自分の小さかった頃に両親、特に父親からいつも言われていたことが二つあります。

まず一つ目は、「道へ出るときは必ず止まって右左を見るんだぞ」ということ。家から数十メートル先の車通りのある道に出るまで、自転車に乗った私を父親が見ていて、私が車の確認をしているかどうかをチェックしていたのを思い出します。その頃は、「また見られている」「ちゃんと止まらんとまたうるさいしな」といった思いでした。

二つ目は、近所の人への挨拶のことです。「在所の中で、とにかく大きな声で挨拶をしろ」といつも言われ、「ちゃんと挨拶したか?」「知らない相手の人でもしたか?」「それと頭をペ

慣れてくると大人たちそっちのけ、自分たちで順番を決めて、小さい子や困っている子がいると声をかけて助け合っています。

どうしても「危ない」が先にきてしまっていて、自宅で工具を使う機会も少なくなったり、怪我をするからと遠ざけたりしていたのかもしれない。

思っている以上に子どもたちは成長していて、最低限の手を貸すだけでなく、自分たちで考えて行動ができるんです。

そんな頼もしい姿にハッと、見えていなかったなあと反省した夏の一日でした。

参加した子どもたちにとって、良い

コトと下げたか。」と家に帰ってきた私に尋ねる父親でした。

そんな幼少期に付いた習慣は、大人になっても身につけていますし、実行できています。また、自分が親の立場になったときは、我が子に「近所の人に挨拶しろ」「その道路に出るときは車が来ないかちゃんと確認しろ」と言っている私がいました。

よそのお宅ではどういった声掛けがなされているのか聞いたことはありませんが、今日も家の前を通る子どもや自転車に乗った中学生が「おはようございませう」「こんばんは!」と大きな声で挨拶をして通り過ぎていきます。当然こちらも「気を付けて!」「行つてらっしゃい」「お帰り!」「おはよう!」と挨拶を返します。

地域のつながりや相手を感じる気持ちの第一歩は挨拶だと思っています。これからも東員町が挨拶いっぴいの町であり続けることを願っています。

(東員町・田舎を愛する小父・50代)

経験になったことでしょうか。

自分たちが作った大切な場所、またたきさんの思い出を作った、話を聞かせてくれる日を少しでも手離して待ちたいと思います。

(愛知県・きんもくせい・36歳)



横断歩道でもあいさつ?!

最近、歩行者を見かけると、止まって横断歩道を優先させるドライバーが増えるように感じる。

かく言う私も、今はそのひとりだと思ふ。しかし、かつての私は、歩行者優先を知りながら、心の中でごめんなさいと呟いて、急いで通り過ぎていた。

自分の行動を改めるようになったのは、ある小学生の姿に出会って、朝の出発時刻を5分早めるようになってからだ。

それは、橋から数十メートル離れた、普段から車通りの多い横断歩道での出来事だ。

ある日、登校する小学生が2人で横断歩道に立つのが見えた。まず、対向車が止まった。それにつられて私も止まると、お辞儀をしながら渡った小学

生が、渡り終えた後、もう一度こちらに向き変えて、笑顔で会釈した。

その姿に、清々しい気持ちで湧き上がったと同時に、当たり前のことをして、そんな気持ちになった自分が恥ずかしくなった。それ以来、歩行者を見かけたらず、まず自分が止まろうと心に決めた。

自転車の中学生や高校生も、駐車場から職場に急ぐ大人も、ほとんどの人は会釈して渡る。知らずに、車の中で自分も会釈を返している。声には出さないけど、知らないもの同士が、「ありがとう」「いえいえ」と、心を通わせているのだ。そんな日は朝から気分がよく、元気が湧いてくる。

(東員町・晴れ時々曇り・63歳)

東員町コスモスまつり発!

みんなのひとことグッドニュース

グッドニュース新聞社のブースにお立ち寄りいただいたみなさん、ひとことグッドニュースをお聞かせくださったみなさん、ありがとうございました!

投稿募集

投稿先

(お便り)

〒511-0255

三重県員弁郡東員町大字長深 3393

グッドニュース新聞社 記事投稿係

(メール)

info@goodnewspress.co.jp

とういんグッドニュース新聞は、全国から届けられた身近なグッドニュースでつくられる新聞です。健康と活躍のまち東員町から、毎月ポジティブな話題を発信しています。ぜひ、あなたのまわりのグッドニュースをお寄せください!

(ホームページ) (Facebook) (Twitter)



投稿の際はタイトル、お名前(ペンネーム)、ご住所、年齢、ご職業をお書き添えください。掲載にあたっては事前にご連絡を差し上げます。

編集室より

グッドニュース新聞社としてのイベント初参加となった東員町コスモスまつり。想像をはるかに超える多くの方にブースへお越しいただき、まさにお祭りさわぎといったにぎわいになりました。紙面でご紹介しきれなかったひとことグッドニュースもたくさんありますので、ホームページも見てみてくださいね!

次号は通常のとういんグッドニュース新聞とは少し違った紙面構成でお届けします。東員町の教育にフォーカスして、たくさんの方のグッドな取り組みをご紹介予定ですので、お楽しみに!